



学校だより

7月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/ryokuenhigashi/>

泉区緑園五丁目28番

Tel (811) 6710

ワクワク、ドキドキを大切に



副校長 丹野 一郎

梅雨真っ盛りです。この時期に、年々思いが強くなるのですが、歴史的な豪雨があったり、雹（ひょう）が降ったりするなど、異常ともいえる気象現象が多くなっているように感じます。低い雲がどんよりと広がり降る雨が、梅雨らしさを感じさせます。そんな雨の中、いつものように東戸塚駅からバスに乗り、車窓から学区の町を眺めていました。雨に煙る景色の中、赤や薄いピンク色、青や紫色の大振りの花が目に入ってきます。この時期の代表的な花である紫陽花（アジサイ）が、目を和ませてくれました。きっと、緑園東小学校に向かう子どもたちの目も楽しませてくれているのではないかと思います。同時に、「なぜ同じ紫陽花なのに、こんなにも色が違うのだろう？」と疑問もわきました。気になったので調べてみると、土壌のPH（ペーハー）、酸性度に違いがあるからということが分かりました。さらには、「黄色い紫陽花はないのだろうか？」「作ることはできないのだろうか？」とまた新たな疑問がわきました。このように「疑問がわき、調べてみる」という行動は、私のような大人でもあるかと思います。

先日、3年生の理科の時間に、学校で育てているキャベツの葉にモンシロチョウの卵が付着しているのを観察している場面を見かけました。3年生の子どもたちは、その卵をじっと見つめながら、「何でキャベツの葉に卵を産むのだろう？」「他のチョウチョも同じなのかな？」などつつやいていました。これらの言葉が表しているように、子どもたちは、本来、知的好奇心や、探求心が旺盛な存在だと思います。

この好奇心は、学校だけでなく、地域社会、家庭、自然、全てが対象です。帰り道、まっすぐ歩けば早く家に着くのに、時折、あちらこちらの虫や花、あらゆる物に興味を奪われ、なかなかその歩を進めることができない姿は、まさにそのものだと思います。私たち大人が、推理小説や映画をみて、本や映画などの世界に入り込んだときと同じような状態ではないでしょうか。疑問をもって課題を探究していくからこそ、「なるほど、そうか」と実感を伴って理解できたり、感動したりできるのです。

その後、3年生の子どもたちは、モンシロチョウの卵をそれぞれの自分の虫かごに入れて飼育し始めました。自宅に持ち帰ったり、また学校に持ってきたりして、熱心に観察を続けていました。さらに、「昆虫のしくみ」について学習を進めていたので、虫かごのさなぎを眺めながら「他の昆虫もさなぎになるのかな？」「ダンゴムシは昆虫じゃないのかな？」など、次々と疑問をもって、「調べてみよう！」と自発的に動き始めていました。このような、子どもたちがワクワク、ドキドキしながら、新しい出会いを求めて動き始めるような働きかけをすることが、私たち教師に求められているのではないかと思います。

きっとこの梅雨が明ける頃には、子どもたちが楽しみにしている夏休みを迎えることとなります。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、夏休みの期間が例年より短くなりました。夏休みこそ、先に述べた好奇心から疑問をもち、その解決に向け自分の手で探求していく絶好の機会でもあります。感染症拡大防止のため、教育活動が制限されることが、いまだに続いています。緑園東小学校の子どもたちたちが、できるだけ好奇心いっぱい、そして成就感のある学校生活を送り、有意義な夏休みを迎えられるよう、今月も“エンジン全開フルパワー”で取り組んでいきたいと思っています。ご協力よろしくお願いいたします。

